

子どもたちが、本に興味を持ってもらえるように活動しています



学校図書館司書
岡直子さん

私たち学校図書館司書は、学校図書の本の整理や修理の他、学校で児童生徒に読み聞かせなどを行っています。子どもたちに、本に興味を持ってもらうため、表紙を見せて棚に配置したり、1つのテーマに沿って5、6冊の本を紹介する「ブックトーク」を行っています。

最近の「ブックトーク」では、「国際理解」というテーマで、ノーベル平和賞を受賞した方の本や児童労働に関する本を紹介しました。

少しずつですが、本の貸出件数や図書室に来てくれる子どもが増えています。

子どもたちには、いろいろなことに興味を持ってもらい、その一つが本であってほしいです。心のどこかで「本って良いな」と思ってもらえる読書環境を作っていきたいですね。

貸し出し手続きの様子。子どもたちから「楽しい本を教えてください」と聞かれることも多いそうです。



子どもたちが、安全に登下校できるように、見守り活動を行っています。

小学校で行われた学芸会の様子。地域にも一般公開しています。



むすびに

11月、12月の2か月にわたり、子どもたちの学力向上に向けた取り組みを紹介してきました。教育委員会では、これからも学校や地域などと連携し、学力向上に取り組んでいきます。

【記事のお問い合わせ】
教育部学校教育課学校教育係
☎(24) 0839

4 「読書活動の推進」
読書は、言葉を学び、表現力や創造力を豊かにし、生きる力を身に付けていく上で不可欠なものです。学校では、「朝読書」の取り組みを通じて、読書習慣の形成と読書指導の充実を図っています。また、平成25年度から学校図書館運営の充実を図るため、司書教諭を補佐する学校図書館司書を配置し、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境づくりに取り組んでいます。

5 小学校と中学校の連携
小学校から中学校へ進学するときに、子どもたちは、大きな環境の変化に適應できないことがあります。これらの問題に対応するには、学校同士が連携を図り、積極的に交流を深め、小学校から中学校への滑らかな接続を図ることが重要です。中学校区内の小学校と中学校が連携して、オープンスクールの開催や中学校教員による小学校での出前授業、生徒指導上の情報交換などを行い、「中一ギャップ」の予防・軽減に取り組んでいます。

6 学校と地域の連携
学校と地域が、より一層の連携・協力を図るため、「学校から地域へ、地域から学校へ」という考えのもと、相互に活動の場を求めながら理解を深めるなど、「学校と地域の連携」に取り組んでいます。

【学校と地域が連携した主な取り組み】

- 地域の方々による、学校評議員や学校支援地域本部事業への参加
- 授業や運動会、学芸会など各種学校行事の地域公開
- 学校だよりの配布やホームページによる地域への情報発信
- 学校と地域が連携した防災訓練
- 町内会が実施する子供会活動、ラジオ体操、通学合宿などの青少年育成活動やゴミ拾い、花壇整備などの環境整備活動
- 千歳っ子見守り隊による、子どもたちの登下校時の見守り活動。



千歳の未来を担う子どもたちが夢や希望を持ち、変化の激しいこれからの社会を自立して生きていくためには、「確かな学力、豊かな心、健やかな体」をバランス良く育てることが大切です。特に「確かな学力」については、全国的に大きな課題となっています。

子どもたちが「確かな学力」を身に付けるためには、学校における学習活動はもちろんですが、家庭や地域の連携・協力がとても重要です。先月に引き続き学校や家庭、地域での取り組みの一部を紹介します。



ALTによる授業風景。市内では、5人のALTが英語指導を行っています。



1 ALT（外国語指導助手）を活用した外国語サポート
子どもたちの国際感覚と実践的なコミュニケーション能力の育成を図るため、全ての小中学校で、ALTが英語の授業を補佐しています。本年度から、小学校ではALTが構成からナレーションまで手掛けた「英語リスニングCD」を作成し、授業の前や昼休みに放送しています。中学校では、ALTと英語教諭による夏休みや冬休み中の「外国語サポート授業」に取り組んでいます。

3 「ハイパーQ検査」の活用

ハイパーQ検査とは、子どもたちの意欲や満足度・学級集団の状況、集団形成に必要な人間関係を営むための能力を把握する検査です。検査結果を個々の指導や学級全体の指導に役立てることで、子どもたちの自己有用感（他人や集団の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚）の向上や学級崩壊の予防、いじめ・不登校の未然防止などを図ります。

2 家庭学習や生活習慣のルールづくり
「平成26年度全国・学力学習状況調査」の結果から、千歳の子どもたちは、「家庭学習の時間が短く、起床時刻が不規則でゲームや携帯電話を使用する時間が長い」傾向があり、家庭での規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。学力の向上には、学校での取り組みの他、家庭における学習習慣や生活習慣の形成が必要のため、各学校では、「家庭学習の手引き」を配布しています。また、児童生徒の実態を踏まえ系統的な指導をするため、中学校区ごとに小・中学校の共通した学習の手引きの作成を進めています。